

《基礎科目》

科目名	情報処理演習				
担当者氏名	川原口 久爾				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。				

《授業の概要》

1. Word/Excel/PowerPointの機能を把握し、基本的な操作ができるようになる。
2. Word/Excel/PowerPointを使用して必要な資料等を時間内に作成できるようになる。
3. 情報モラル・電子メールについて理解を深める。

《授業の到達目標》

1. Wordで、文字の入力から文書の新規作成、既存の文書の編集、印刷まで一連の操作を習得します。
2. Excelで作成、データ入力、計算式や関数を使用した計算、グラフの作成まで一連の操作を習得します。
3. PowerPointでスライドの作成、スライドの操作、効果的な表現まで一連の操作を習得します。

《成績評価の方法》

実技試験60%
課題20%
授業の取組20%

《教科書》

学生のためのかんたんWord/Excel/PowerPoint入門
(技術評論社)

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

1. 教科書等の問題を課題とする。
2. 課題を印刷もしくはメールにて提出をする。
3. 採点をし返却する。
4. 返却後、フィードバックとやり直しをする。

《成績評価基準》

授業で提出した課題・実技試験の結果から総合的に評価します。

《参考図書》

実技で学ぶ情報モラル(日本情報処理検定協会)

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	1章パソコンや入力操作の基本編	シラバス・教科書1章の確認(30分) キーボードを使用しての入力練習(10分)
2	2章フォルダやファイル操作の基本編	教科書2章の確認(30分) 授業内容の復習(30分)
3	3章ワード編	教科書3章確認(30分) 授業内容の復習(30分)
4	3章ワード編	教科書3章確認(30分) 授業内容の復習(30分)
5	5章PowerPoint編	教科書5章確認(30分) 授業内容の復習(30分)
6	5章PowerPoint編	教科書5章確認(30分) 授業内容の復習(30分)
7	5章PowerPoint編	教科書5章確認(30分) 授業内容の復習(30分)
8	3章ワード編	教科書3章確認(30分) 授業内容の復習(30分)
9	3章ワード編	教科書3章確認(30分) 授業内容の復習(30分)
10	3章ワード編	教科書3章確認(30分) 授業内容の復習(30分)
11	4章Excel編	教科書4章確認(30分) 授業内容の復習(30分)
12	4章Excel編	教科書4章確認(30分) 授業内容の復習(30分)
13	4章Excel編	教科書4章確認(30分) 授業内容の復習(30分)
14	4章Excel編	教科書4章確認(30分) 授業内容の復習(30分)
15	4章Excel編	教科書4章確認(30分) 授業内容の復習(30分)

《基礎科目》

科目名	キャリア演習 A				
担当者氏名	高木 富士男、小川 茜				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。				

《授業の概要》

1. 大学での学びや授業への取り組み方に関する授業を行います
2. 将来に向けた動機づけを高める取り組みに関する授業を行います

《教科書》

「大学生学びのハンドブック（5訂版）」世界思想社編集部（編）世界思想社

《課題（試験、レポート等）に対するフィードバックの方法》

提出課題は評価・フィードバックをした上で返却します

《授業の到達目標》

1. 大学における講義の受講方法や学習方法についての基礎を身に付ける
2. 礼儀、マナー、社会常識を高め、社会人基礎力を身に付ける

《成績評価基準》

1. 授業の内容を踏まえ、かつ与えられる課題を通して、進路選択に関連する取り組みを実践できる
2. 課題を設定し、それを解決するための取り組みを行い、人に分かりやすく伝えることができる
3. 授業内で取り組む一般常識問題について6割以上解答できる

《成績評価の方法》

筆記試験 % レポート %
 課題 80% 実技 %
 授業の取組 20%
 その他 () %

《参考図書》

適宜紹介

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス、年間計画の作成、遠隔受講の準備	大学生活で取り組みたい事について具体的に考え、まとめる(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
2	大学での学び 遠隔受講の準備、講義の受け方	教科書の該当範囲を読む(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
3	進路支援 スーツ着こなし講座	スーツの着こなしについて教科書やインターネットで調べる(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
4	進路支援 実習報告会	興味のある職業について調べてまとめる(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
5	進路支援 OBOGへのキャリアインタビュー1	興味のある職業について調べてまとめる(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
6	進路支援 OBOGへのキャリアインタビュー2	興味のある職業について調べてまとめる(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
7	進路支援 スポーツの仕事や資格の必要性	興味のある職業について調べてまとめる(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
8	大学での学び 資料の探し方、情報収集法1	教科書の該当範囲を読む(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
9	大学での学び 資料の探し方、情報収集法2	教科書の該当範囲を読む(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
10	大学での学び 情報の整理方法1	教科書の該当範囲を読む(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
11	大学での学び 情報の整理方法2	教科書の該当範囲を読む(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
12	大学での学びとは レポートの書き方1	教科書の該当範囲を読む(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
13	大学での学びとは レポートの書き方2	教科書の該当範囲を読む(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
14	進路支援 履歴書作成と求人票	自身の保有する資格や免許の正式名称や取得年月日をまとめる(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
15	まとめ	これまでの授業内容を復習する(30分)・今回の授業内容の復習(30分)

《基礎科目》

科目名	総合演習 A				
担当者氏名	星子 和夫、高木 富士男、小川 茜、坂元 瑞貴				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力	1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。				

《授業の概要》

“共に動く”ことをスローガンとし、西短スポーツフェスタの準備やダブルダッチの練習をクラス全体で行います。学校行事と学科イベントは本講の一環としてとらえ、必ず出席しましょう。社会人になる上で重要な要素が多く組み込まれています。積極的に参加しましょう。

《授業の到達目標》

1. 本学科の教育方針である『健スポ五心』の趣旨を理解し、日常生活で実践できる
2. 社会人として必要なコミュニケーション能力を身に付け、グループ活動に参加できる
3. ダブルダッチにおけるターナーチェンジやスライド、ターナーターンなどの基本的なパフォーマンスが実施できる

《成績評価の方法》

課題 30%
実技 40%
授業の取組 30%

《教科書》

適宜資料を配布します

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

提出課題は評価・フィードバックをした上で、まとめて返却します。
グループワークへの参加姿勢や発表内容について、講評の時間を設けます。

《成績評価基準》

1. 教養教育やイベント参加を通して学んだことを、自分の言葉で丁寧にまとめることができる
2. グループ内で協力し、与えられた課題やイベント活動を共同作業によって達成することができる
3. プログラムを計画し、ダブルダッチの基本的なパフォーマンスを実施することができる

《参考図書》

「ダブルダッチ入門」日本ダブルダッチ協会

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス、学生生活、履修登録確認	学生便覧を読む(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
2	学科イベントへの取り組み	団マラニックについて、先輩や教員から話を聞く(2時間) 団マラニックに必要な体力・筋力トレーニングを行う(2時間)
3	学科イベントの振り返り、個人ミーティング	団マラニックで学んだ内容をまとめる(2時間) 団マラニックで学んだことを振り返り、提出物を作成する(2時間)
4	教養教育(情報リテラシー)	情報通信機器の使い方について考え、振り返る(2時間) 授業で学んだことを振り返り、提出物を作成する(2時間)
5	学校イベントへの取り組み	スポーツフェスタについて、先輩や教員から話を聞く(2時間) グループで練習をする(2時間)
6	学校イベントへの取り組み	グループで練習をする(2時間) グループで練習をする(2時間)
7	学校イベントの振り返り、ポートフォリオ	スポーツフェスタで学んだ内容をまとめる(2時間) スポーツフェスタで学んだことを振り返り、提出物を作成する(2時間)
8	メンタルヘルス講習会	現在の心の状態について考え、まとめる(2時間) 授業で学んだことを振り返り、提出物を作成する(2時間)
9	教養教育(熱中症予防講座)	熱中症について教科書やインターネット等で予習する(2時間) 授業で学んだことを振り返り、提出物を作成する(2時間)
10	グループワーク	ダブルダッチについてインターネット等で予習する(2時間) グループで練習をする(2時間)
11	グループワーク	グループでパフォーマンスを考え、計画する(2時間) グループで練習をする(2時間)
12	グループワーク	グループでパフォーマンスを考え、計画する(2時間) グループで練習をする(2時間)
13	グループワーク	グループでパフォーマンスを考え、計画する(2時間) グループで練習をする(2時間)
14	イベントパフォーマンス発表	グループで練習をする(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
15	福浜祭について(出店企画)	出店内容について考え、まとめる(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)

《基礎科目》

科目名	スポーツ学入門				
担当者氏名	星子 和夫、高木 富士男、小川 茜、坂元 瑞貴				
授業方法	講義	単位・必修	2単位・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力	1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》

現在までに経験してきたスポーツを通して、誰もが取り組んできたスポーツ全般のあり方を考えながらスポーツの概念を学び、これからのスポーツを考察していく。スポーツは老若男女が様々な考えや目的で、レクリエーションをはじめ健康体づくり、リハビリテーション、競技力の向上などに取り組んでいる。自身の身体状況やスポーツ活動環境、スポーツの社会的問題、スポーツ行政の現状と今後などを学習していく。

《授業の到達目標》

現在までのスポーツに関する偏った考えから広い視点で考察することができるようになる。そのために、各教員の授業内容を理解しながら基礎的教養を述べることができる。

《成績評価の方法》

筆記試験 80%
授業への取組 20%

《教科書》

使用しない。

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

小テストとしている試験の解答は、その時間内に行う。

《成績評価基準》

広い視野でスポーツを考察できるようになる。また、各教員の授業内容を理解することができる。各20点満点の小テストを4回行い、授業への取り組みをもって総合的に評価します。

《参考図書》

「Reference Book」(公財)日本スポーツ協会、「スポーツから気づく大切なこと」中山和義著、実業之日本社

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	スポーツから学ぶライフスキル	何のためにスポーツに取り組んできたのかを考察しておく(2時間) 経験スポーツ・スポーツ環境から何を学んだのかまとめておくこと(2時間)
2	オリンピック・パラリンピックについて	健常者・障がい者のスポーツを考えておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
3	発育発達における体力変化とスポーツ	成長過程の体力を考え、それに伴ったスポーツ活動をまとめておくこと(2時間) これまでの授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
4	加齢に伴う体力変化について、小テスト	加齢に伴う体力減少について考え、まとめておくこと(2時間) 授業で学んだ内容を復習し、まとめておくこと(2時間)
5	ニュースポーツについて	どのようなニュースポーツがあるか調べておくこと(2時間) 授業で学んだ内容を復習し、まとめておくこと(2時間)
6	スポーツビジョンとそのトレーニング法	スポーツビジョンとは何か調べておくこと(2時間) 授業で学んだ内容を復習し、まとめておくこと(2時間)
7	運動と脳1	脳にはどのような領域があるのか調べておくこと(2時間) 授業で学んだ内容を復習し、まとめておくこと(2時間)
8	運動と脳2、小テスト	運動することで脳や身体にどのような影響があるのか調べておくこと(2時間) 授業で学んだ内容を復習し、まとめておくこと(2時間)
9	スポーツの意義と価値	スポーツの意義と効果について調べておくこと(2時間) 授業で学んだ内容を復習し、まとめておくこと(2時間)
10	スポーツトレーニングの基本的な考え方	スポーツトレーニングの方法について調べておくこと(2時間) 授業で学んだ内容を復習し、まとめておくこと(2時間)
11	パラスポーツ1	パラスポーツとは何か調べておくこと(2時間) 授業で学んだ内容を復習し、まとめておくこと(2時間)
12	パラスポーツ2 小テスト	9回~11回の授業内容を復習しておくこと(2時間) 授業で学んだ内容を復習し、まとめておくこと(2時間)
13	スポーツの場で起きているハラスメント	ハラスメントの定義や種類を調べておくこと(2時間) 授業で学んだ内容を復習し、まとめておくこと(2時間)
14	メンタルトレーニング1	スポーツにおけるメンタルの重要性を考え、まとめておくこと(2時間) 授業で学んだ内容を復習し、まとめておくこと(2時間)
15	メンタルトレーニング2、 小テスト	競技力向上に活用されているメンタルトレーニングについて調べる(2時間) 授業で学んだ内容を復習し、まとめておくこと(2時間)

《専門科目》

科目名	解剖生理学				
担当者氏名	星子 和夫				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力		1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。			

《授業の概要》

本講義は、人体機能について取り扱うことから、スポーツ科学を学ぶ学生にとって必須の学問です。人体はどの器官をとっても、まるで精密機械のような機能を持ち、その神秘さゆえに「小宇宙」とさえ表現されます。そこで、スポーツ指導に携わる者として必要となる人体の構造及び反応や適応などについて理解を深めていきます。なお、当科目は第一種衛生管理者、トレーニング指導者の指定科目です。

《授業の到達目標》

1. 人体の構造と機能についての概観をとらえることができる。特に筋系、骨格系、呼吸循環器系については詳しく説明できる。
2. 人体の各器官のはたらきを専門用語を用いて具体的に説明できる。

《成績評価の方法》

筆記試験 100%

《教科書》

「なるほどなっとく！解剖生理学」改訂2版
 多久和典子・多久和陽著南山堂
 「Reference Book」（公財）日本スポーツ協会

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

20点満点の小テストを5回行い、次の授業で解答・解説をします。

《成績評価基準》

スポーツインストラクターやトレーナーを目指す上で必要な筋系、骨格系、呼吸循環器系および人体の各器官のはたらきを専門用語を用いて筆記試験を行い評価します。

《参考図書》

「新しい解剖生理学」山本ら著、南江堂
 「のほほん解剖生理学」玉先生著、永岡書店

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	基礎知識、細胞	新しい解剖生理学P1～P18を熟読し整理しておくこと(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
2	人体の組織	新しい解剖生理学P18～P23を熟読し整理しておくこと(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
3	骨格系	新しい解剖生理学P229～P239を熟読し整理しておくこと(2時間) 3コマ分の授業内容の復習(2時間)
4	筋系 小テスト	新しい解剖生理学P240～P265を熟読し整理しておくこと(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
5	感覚器系	新しい解剖生理学P201～P227を熟読し整理しておくこと(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
6	神経系 小テスト	新しい解剖生理学P169～P200を熟読し整理しておくこと(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
7	神経系	新しい解剖生理学P169～P200を熟読し整理しておくこと(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
8	血液	新しい解剖生理学P121～P141を熟読し整理しておくこと(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
9	循環器系 小テスト	新しい解剖生理学P25～P52を熟読し整理しておくこと(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
10	呼吸器系	新しい解剖生理学P53～P74を熟読し整理しておくこと(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
11	消化と吸収 小テスト	新しい解剖生理学P75～P103を熟読し整理しておくこと(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
12	排泄	新しい解剖生理学P105～P120を熟読し整理しておくこと(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
13	内分泌	新しい解剖生理学P143～P168を熟読し整理しておくこと(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
14	生殖	新しい解剖生理学P267～P293を熟読し整理しておくこと(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
15	まとめ 小テスト	テキストを読み、わからないところや疑問点をまとめる(2時間) これまでの授業内容の復習(2時間)

《専門科目》

科目名	発育発達論				
担当者氏名	田代 利康				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》

発育発達に即した年齢的な変化や性差、個人差から身体の特徴をとらえる。また、誤った指導法によるケガや病気について理解し、発育発達に応じた運動の基礎理論を学ぶ。

《教科書》

「Reference Book」（公財）日本スポーツ協会「健康運動実践指導者養成用テキスト」（公財）健康・体力づくり事業財団

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

ワーク課題はコメントをつけて2週間以内に返却する。レポート課題については、授業の中で解説や説明する時間を設ける。

《授業の到達目標》

人の発育発達における構造や機能の特性を理解するとともに、それに適したトレーニングや運動指導を行うための必要な知識を習得する。

《成績評価基準》

レポート課題50% 授業中の提出物40% 授業取り組み状況10%を基に総合評価する。

《成績評価の方法》

レポート 50%
課題 40%
授業の取組 10%

《参考図書》

「公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト」（公財）日本スポーツ協会

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス / 身体発達の概念	予習：公認スポーツ指導者養成テキストIを熟読し整理しておく 2時間 復習：身体発達の復習 2時間
2	身体発達の概要	予習：公認スポーツ指導者養成テキストIを熟読し整理しておく 2時間 復習：身体発達の概要の復習 2時間
3	発育曲線の類型	予習：公認スポーツ指導者養成テキストIを熟読し整理しておく 2時間 復習：発育曲線の類型の復習 2時間
4	身体計測値の年齢的变化と形態発育	予習：公認スポーツ指導者養成テキストIを熟読し整理しておく 2時間 復習：身体発達の復習 2時間
5	身体発達の性差と個人差	予習：公認スポーツ指導者養成テキストIを熟読し整理しておく 2時間 復習：身体計測値の年齢的变化と携帯発育の復習2時間
6	身体機能の発達と個人差	予習：公認スポーツ指導者養成テキストIを熟読し整理しておく 2時間 復習：身体発達の性差と個人差の復習 2時間
7	発育発達期に多いケガや病気	予習：公認スポーツ指導者養成テキストIを熟読し整理しておく 2時間 復習：発育発達期に多いケガや病気の復習 2時間
8	発育発達期のプログラム	予習：公認スポーツ指導者養成テキストIを熟読し整理しておく 2時間 復習：発育発達期のプログラムの復習 2時間
9	動きの発達とスキル獲得 乳幼児期	予習：公認スポーツ指導者養成テキストIを熟読し整理しておく 2時間 復習：動きの発達とスキル獲得 の復習 2時間
10	動きの発達とスキル獲得 児童前期	予習：公認スポーツ指導者養成テキストIを熟読し整理しておく 2時間 復習：動きの発達とスキル獲得 の復習 2時間
11	動きの発達とスキル獲得 児童後期	予習：公認スポーツ指導者養成テキストIを熟読し整理しておく 2時間 復習：動きの発達とスキル獲得 の復習 2時間
12	動きの発達とスキル獲得 青年前期	予習：公認スポーツ指導者養成テキストIを熟読し整理しておく 2時間 復習：動きの発達とスキル獲得 の復習 2時間
13	スキルの獲得とその獲得過程、質的評価	予習：公認スポーツ指導者養成テキストIを熟読し整理しておく 2時間 復習：スキルの獲得とその獲得過程の復習 2時間
14	指導への応用	予習：公認スポーツ指導者養成テキストIを熟読し整理しておく 2時間 復習：運動遊びの復習 2時間
15	まとめ	予習：公認スポーツ指導者養成テキストIを熟読し整理しておく 2時間 復習：総合的なまとめの復習 2時間

《専門科目》

科目名	体力学				
担当者氏名	星子 和夫				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》

本講では、体力全般を広く理解する。近年は子どもの運動時間・体力の二極化やウォーキング・ランニングなどの健康ブームの背景により発育発達段階から加齢に伴う年齢・性別で理解し、体力の維持向上のためのトレーニングの原理原則や効果、安全管理について展開する。当科目は「健康運動実践指導者」、「トレーニング指導者」、「GFI」、「コーチングアシスタント」、「ジュニアスポーツ指導員」資格の指定科目です。

《授業の到達目標》

さまざまなライフステージの体力の特徴をとらえながら身体活動の必要性を理解し、安全で効果的な体力向上のためのトレーニングの知識を学習する。

《成績評価の方法》

筆記試験 100%

《教科書》

「Reference Book」（公財）日本スポーツ協会
「健康運動実践指導者養成用テキスト」（公財）健康・体力づくり事業財団

《課題（試験、レポート等）に対するフィードバックの方法》

20点満点の小テストを5回実施し、合計点数を評価とするが、小テスト実施の次回講義において解答および解説を行う。また、最終講義での小テストは最後に解答および解説を行い、講評する。

《成績評価基準》

体力の概念を念頭に置き、各年代別・性別のカラダや体力の変化を理解する。また、体力の維持向上のためのトレーニングの原理原則をはじめ、方法や効果、また一連のトレーニング計画から安全管理までまとめることができる。

《参考図書》

なし

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	体力とは	自身や家族の健康や体力に関し、考察しておくこと(1時間) 体力の概念および学習内容を復習しておくこと(3時間)
2	からだと体力の男女差	身体の成長および体力の男女差を考慮しておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
3	発育発達と体力	成長に伴う発育と発達を理解し、体力の変化を考え、まとめておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
4	発育発達と体力	発育発達の視点から体力の変化を考慮しておくこと(2時間) 授業で学んだ内容を復習し、まとめておくこと(2時間)
5	加齢に伴う体力変化と高齢者の身体的特徴	20歳を超えてからの加齢に伴う体力の変化を考察しておくこと(2時間) 小テスト のためにこれまでの内容を復習しておくこと(2時間)
6	身体活動量・体力を確保する必要性	身体活動の必要性、最低限の体力の必要性を考慮しておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
7	健康づくりのための身体活動指針2013	教科書「健康運動実践指導者養成用テキスト」p99 - 101を読んでおくこと(2時間) 小テスト のためにこれまでの内容を復習しておくこと(3時間)
8	トレーニングの原理と原則	教科書「Reference Book」p178 - 180を読んでおくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
9	有酸素運動とその効果	有酸素運動とは何かを考え、どのような運動種目があるのかを考慮しておくこと(2時間) 小テスト のためにこれまでの内容を復習しておくこと(3時間)
10	呼吸循環系のトレーニング	教科書「Reference Book」p181 - 184を読んでおくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
11	筋系のトレーニング	教科書「Reference Book」p184 - 189を読んでおくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
12	トレーニング計画と運動プログラム	教科書「健康運動実践指導者養成用テキスト」p102 - 104を読んでおくこと(3時間) 小テスト のためにこれまでの内容を復習しておくこと(2時間)
13	運動プログラム作成と基礎	教科書「Reference Book」を読んでおくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
14	有酸素運動指導の安全性	教科書「健康運動実践指導者養成用テキスト」p111 - 113を読んでおくこと(2時間) 小テスト のためにこれまでの内容を復習しておくこと(3時間)
15	まとめ	小テスト のためにこれまでの内容を復習しておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)

《専門科目》

科目名	救急処置法演習				
担当者氏名	重森 裕				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力	1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》

健康運動実践指導者・第一種衛生管理者として必要な救急処置法を学ぶ。救急処置法は、生命危機を回避するための呼吸、循環の管理を必要とする初期診療に始まり、各外傷に行うべき基本的処置に及ぶ。本講義では初期診療の基本である気道確保、呼吸管理、循環管理を学び、健康運動実践指導者が遭遇すると想定される外傷、内科疾患に対する処置、対処法を修得する。脈の触診法、頸椎保護、AEDの使用法についても指導する。

《授業の到達目標》

救急蘇生を躊躇なく、迅速にかつ正しく行える。
一次救命処置である、心肺蘇生、AED による除細動の基本概念を理解し、実践できる。

健康運動実践指導者・第一種衛生管理者として、遭遇すると予想される外傷、内科的急病に対処できる。指導中の不慮の外傷や呼吸、循環器、脳卒中などの急病を各疾患毎に理解し、対処法を実践できる。

《成績評価の方法》

筆記試験 80 % レポート 10 %
課題 5 % 実技 5 %
授業の取組 % その他 () %

《教科書》

「健康運動実践指導者養成用テキスト」(公財)健康・体力づくり事業財団

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

試験内容に対する解説の時間を設ける。

《成績評価基準》

本講義は、「健康運動実践指導者養成」を目的としており、成績評価は同指導者として合格するまたは、評価される知識レベルおよび、技術レベルの養成を目的としている。そのために、成績評価は、同指導者として認定されるレベルを合格基準として参考する。希望者は、BLS の取得も目標とする。

《参考図書》

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	救急処置法総論	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する(30分) 復習：配布プリントで授業内容の整理する(30分)
2	救急処置法各論(1)	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する(30分) 復習：配布プリントで授業内容の整理する(30分)
3	救急処置法各論(2)	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する(30分) 復習：配布プリントで授業内容の整理する(30分)
4	救急処置法各論(3)	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する(30分) 復習：配布プリントで授業内容の整理する(30分)
5	救急処置法実習(1)	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する(30分) 復習：配布プリントで授業内容の整理する(30分)
6	内科的疾患の救急処置	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する(30分) 復習：配布プリントで授業内容の整理する(30分)
7	意識障害について	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する(30分) 復習：配布プリントで授業内容の整理する(30分)
8	頭痛の総論と各論	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する(30分) 復習：配布プリントで授業内容の整理する(30分)
9	頭部外傷	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する(30分) 復習：配布プリントで授業内容の整理する(30分)
10	胸部、腹部外傷	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する(30分) 復習：配布プリントで授業内容の整理する(30分)
11	四肢、股関節外傷	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する(30分) 復習：配布プリントで授業内容の整理する(30分)
12	小児と老人の外傷	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する(30分) 復習：配布プリントで授業内容の整理する(30分)
13	救急処置法実習(2)	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する(30分) 復習：配布プリントで授業内容の整理する(30分)
14	まとめ	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する(30分) 復習：配布プリントで授業内容の整理する(30分)
15	まとめ	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する(30分) 復習：配布プリントで授業内容の整理する(30分)

《専門科目》

科目名	健康教育学				
担当者氏名	坂元 瑞貴				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》

「健康運動実践指導者養成用テキスト」を用い、健康づくりがどのように行われてきたのか、歴史・現状・対策・制度の観点から学びます。また自身の生活習慣を振り返り、身近なところから健康について考えます。「健康運動実践指導者」の資格取得を希望する学生は、履修することを望みます。

《教科書》

「健康運動実践指導者養成用テキスト」
(公財)健康・体力づくり事業財団

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

講義終了後にミニッツペーパーの提出を行い、評価・フィードバックをした上で返却します。

《授業の到達目標》

1. 「健康」とはなにか具体的に述べるができる。
2. わが国の健康づくり施策について理解し、説明することができる。
3. メタボリックシンドロームについて説明でき、診断基準からメタボリックシンドロームであるか見極めができる。
4. 介護予防やメディカルチェックについて理解し、説明することができる。

《成績評価の方法》

筆記試験 70%
課題 10%
授業の取組 20%

《成績評価基準》

1. 健康づくり施策の歴史について学び、現状を説明することができる。
2. メタボリックシンドロームの診断基準について理解することができる。
3. 生活習慣病についてまとめ、自身の生活習慣に関連づけて考えることができる。

《参考図書》

「健康運動指導士養成講習会テキスト上・下」(公財)健康・体力づくり事業財団

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	健康の定義	自身の健康観について考え、まとめる(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
2	健康と体力について(ウェルネス)	教科書の該当範囲を読む(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
3	健康づくりの概念	教科書の該当範囲を読む(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
4	健康づくり施策の歴史	教科書の該当範囲を読む(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
5	健康づくり施策の歴史	教科書の該当範囲を読む(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
6	健康づくり施策の歴史	教科書の該当範囲を読む(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
7	メタボリックシンドローム	メタボリックシンドロームについて調べて、まとめる(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
8	生活習慣病	生活習慣病について調べて、まとめる(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
9	運動と健康 - 適正体重の維持 -	自身の運動習慣について振り返り、まとめる(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
10	飲酒と健康	飲酒の健康影響について調べて、まとめる(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
11	喫煙と健康	喫煙の健康影響について調べて、まとめる(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
12	栄養と健康	自身の食習慣について振り返り、まとめる(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
13	介護予防	教科書の該当範囲を読む(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
14	突然死とメディカルチェック	教科書の該当範囲を読む(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
15	まとめ	これまでの授業内容を復習する(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)

《専門科目》

科目名	レクリエーション活動援助法 A				
担当者氏名	原田 弘美				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》

現代社会のなかで余暇やレクリエーションの持つ意味を理解し、レクリエーションが充実した人生づくり、豊かな人間関係の基盤になることを学習する。対象者の主体性を尊重する姿勢やレクリエーション支援方法の幅広さを理解し、一人ひとりの豊かなライフスタイルづくりにむけてレクリエーションを意図的に活用することを学習する。この授業は、「レクリエーション・インストラクター」資格取得のための指定科目である。

《授業の到達目標》

- 1.レクリエーションが地域社会の課題に幅広く用いられていることを説明できる。
- 2.人々の心を元気にするためのレクリエーション支援の基礎知識を理解し、演習に活用することができるようになる。
- 3.集団のまとまりをつくる技法や参加者同士の交流を促進するレクリエーションの展開法を理解し実施することができる。

《成績評価の方法》

筆記試験 60% レポート %
 課題 40% 実技 %
 授業の取組 %
 その他 () %

《教科書》

楽しさをおとした心の元気づくり 公益財団法人日本レクリエーション協会 レクリエーション指導者ハンドブック
 NPO法人福岡県レクリエーション協会

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

授業内提出物は評価フィードバックをしたうえで返却します。

《成績評価基準》

筆記試験 60パーセント、課題 40パーセントにより評価する。

《参考図書》

適宜紹介します

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)	
1	ガイダンス レクリエーション概論	テキスト 4～8ページを読み整理しておく。(2時間) 回の授業内容の復習。(2時間)	今
2	レクリエーション概論 支援者の役割	テキスト 10～17ページを読み整理しておく。(2時間) 今回の授業内容の復習。(2時間)	
3	楽しさをおとした心の元気づくりの理解	テキスト 20～28ページを読み整理しておく。(2時間) 今回の授業内容の復習。(2時間)	
4	ライフステージと心の元気づくり	テキスト 29～36ページを読み整理しておく。(2時間) 今回の授業内容の復習。(2時間)	
5	レクリエーション体験学習 1	ハンドブック 105～128ページを読み整理しておく。(2時間) 今回の授業内容の復習。(2時間)	
6	レクリエーション体験学習 2	ハンドブック 129～166ページを読み整理しておく。(2時間) 今回の授業内容の復習。(2時間)	
7	レクリエーション支援とコミュニケーション	ハンドブック 17～48ページを読み整理しておく。(2時間) 今回の授業内容の復習。(2時間)	
8	信頼関係づくりの理論	テキスト 38～43を読み整理しておく(2時間) 今回の授業内容の復習。(2時間)	
9	信頼関係づくりの方法	テキスト 58～65を読み整理しておく(2時間) 今回の授業内容の復習。(2時間)	
10	良好な集団づくりの理論	テキスト 44～49を読み整理しておく。(2時間) 今回の授業内容の復習。(2時間)	
11	良好な集団づくりの方法	テキスト 66～69を読み整理しておく。(2時間) 今回の授業内容の復習。(2時間)	
12	自主的、主体的に楽しむ力を育む理論	テキスト 50～55を読み整理しておく。(2時間) 今回の授業内容の復習。(2時間)	
13	自主的、主体的に楽しむ力を育む活動の展開法 1	テキスト 70～77を読み整理しておく。(2時間) 今回の授業内容の復習。(2時間)	
14	自主的、主体的に楽しむ力を育む活動の展開法 2	テキスト 78～82を読み整理しておく。(2時間) 今回の授業内容の復習。(2時間)	
15	まとめ	これまでの授業内容を復習する。(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)	

《専門科目》

科目名	トレーニング演習				
担当者氏名	河村 茂				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》

トレーニングの行い方、安全にクライアントを誘導できるようになる。正しいトレーニング指導ができるようになる。

《教科書》

「トレーニング指導者テキスト実践編・理論編」日本トレーニング指導者協会編著 「健康運動実践指導者養成用テキスト」健康・体力づくり事業財団

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》
希望があれば解説の時間を設ける。

《授業の到達目標》

スポーツトレーナーとして、科学的な見地で捉え、専門的な知識を身につけること。

《成績評価基準》

14コマ目にて筆記テストを実施。

《成績評価の方法》

筆記試験 80 % レポート 0 %
課題 0 % 実技 10 %
授業の取組 10 % その他 () %

《参考図書》

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	トレーニングについて	予習：教科書 P3～P21 (30分) 復習：教科書 P3～P21 (30分)
2	ウォーミングアップとクールダウン、柔軟性向上トレーニング	予習：教科書 P86～P90 (30分) 復習：教科書 P86～P90 (30分)
3	ウォーミングアップとクールダウン、柔軟性向上トレーニング	予習：教科書 P86～P90 (30分) 復習：教科書 P86～P90 (30分)
4	フリーウェイトトレーニングとマシントレーニング	予習：教科書 P25～P65 (30分) 復習：教科書 P25～P65 (30分)
5	レジスタンストレーニングの実際	予習：教科書 P25～P65 (30分) 復習：教科書 P25～P65 (30分)
6	レジスタンストレーニングの実際	予習：教科書 P25～P65 (30分) 復習：教科書 P25～P65 (30分)
7	レジスタンストレーニングの実際	予習：教科書 P25～P65 (30分) 復習：教科書 P25～P65 (30分)
8	有酸素性・無酸素性持久力向上トレーニングの実際	予習：教科書 P68～P75 (30分) 復習：教科書 P68～P75 (30分)
9	有酸素性・無酸素性持久力向上トレーニングの実際	予習：教科書 P68～P75 (30分) 復習：教科書 P68～P75 (30分)
10	パワー・スピード向上トレーニングの実際	予習：教科書 P54～P65 (30分) 復習：教科書 P54～P65 (30分)
11	パワー・スピード向上トレーニングの実際	予習：教科書 P54～P65 (30分) 復習：教科書 P54～P65 (30分)
12	パワー・スピード向上トレーニングの実際	予習：教科書 P54～P65 (30分) 復習：教科書 P54～P65 (30分)
13	運動プログラム立案と指導上の注意	予習：教科書 P203～P227 (30分) 復習：教科書 P203～P227 (30分)
14	テスト	予習：教科書全て (60分) 復習：教科書全て (60分)
15	まとめ	

《専門科目》

科目名	パラスポーツ実技				
担当者氏名	高木 富士男				
授業方法	実技	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》

アイマスク体験や車いす体験をした後、全国障がい者スポーツ大会の実施種目を中心に、障がい者スポーツを実施する。障がい者スポーツを体験するなかで、障がいに応じたルールと用具の工夫点、指導方法などを解説する。

《教科書》

使用しない

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

提出課題や質問については、次回の授業時間に解説する。

《授業の到達目標》

1. 障がい者スポーツのルールを他者に説明することができる。
2. 障がい者スポーツを他者と協力して実施することができる。
3. 障がい者スポーツを他者に指導することができる。

《成績評価基準》

参加度(受講態度・積極性)45%...1回授業の参加度を3点とし評価する。
授業内レポートの提出30%...各授業後に課題を提示し、30点換算して評価する。
技術の習得25%...実技課題を設定し、達成レベルに応じて評価する。

《成績評価の方法》

受講態度・積極性45%、授業内レポートの提出30%、技術の習得25%

《参考図書》

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス アイマスク体験	予習：視覚障がいについて調べる(60分) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる(30分)
2	視覚障がい者へのスポーツ導入	予習：視覚障がい者のスポーツを調べる(60分) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる(30分)
3	車いす体験	予習：肢体不自由者について調べる(60分) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる(30分)
4	車いすバスケットボール1	予習：車いす使用者のスポーツを調べる(60分) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる(30分)
5	車いすバスケットボール2	予習：車いすバスケットのルールを調べる(60分) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる(30分)
6	車いすバスケットボール3	予習：車いすバスケットの大会を調べる(60分) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる(30分)
7	車いすバスケットボール4	予習：車いすバスケットの戦術を考える(60分) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる(30分)
8	車いすでラケット種目(卓球・バドミントン)1	予習：車いす卓球について調べる(60分) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる(30分)
9	車いすでラケット種目(卓球・バドミントン)2	予習：車いすバドミントンについて調べる(60分) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる(30分)
10	サウンドテーブルテニス	予習：サウンドテーブルテニスについて調べる(60分) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる(30分)
11	フロアバレーボール1	予習：フロアバレーボールについて調べる(60分) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる(30分)
12	フロアバレーボール2	予習：フロアバレーボールの動画を視聴する(60分) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる(30分)
13	フロアバレーボール3	予習：フロアバレーボールの動画を視聴する(60分) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる(30分)
14	フロアバレーボール4	予習：フロアバレーボールの戦術について調べる(60分) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる(30分)
15	フットベースボール	予習：フットベースボールについて調べる(60分) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる(30分)

《専門科目》

科目名	ラケットスポーツ				
担当者氏名	坂元 瑞貴				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》

卓球とバドミントンの特性や種目特有のマナー、ゲームの運営方法などを習得することにより、自分で練習を組み立て、ゲームを進行していきけるようになります。また卓球やバドミントンの基本的技術を習得することで、ラケット種目の楽しさやダブルスにおけるペアとの協力の重要性などを実感し、生涯スポーツとして親しんでいける能力を身に付けます。

《教科書》

使用しない

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

技術練習やリーグ戦の取り組みに対して、適宜フィードバックを受けます。

《授業の到達目標》

1. 卓球とバドミントンの基本的技術・ルール・マナーを習得し、実施することができる。
2. 円滑で安全なゲームの運営方法を習得し、対応することができる。
3. ラケット種目の楽しさを実感できる。

《成績評価基準》

1. 卓球とバドミントンの基本的技術を身に付け、ゲームの中で発揮することができる。
2. 安全に留意しながらゲームの運営をすることができる。
3. ペアで協力し、ゲームに対する練習計画を組み立てることができる。

《成績評価の方法》

実技 50%
授業の取組 50%

《参考図書》

「バドミントン教本」日本バドミントン協会(編)
ベースボール・マガジン社
「新基本レッスン卓球」近藤欽司(著)大修館書店

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス	ラケット種目の歴史・特性について参考書やインターネット等で予習する(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
2	卓球 用具の取り扱い、基礎技術、マナー	卓球の特性について参考書やインターネット等で予習する(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
3	卓球 個人技術(フォアハンド打法)とゲーム	フォアハンド打法について参考書やインターネット等で予習する(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
4	卓球 個人技術(バックハンド打法)とゲーム	バックハンド打法について参考書やインターネット等で予習する(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
5	卓球 個人技術(カット打法)とゲーム	カット打法について参考書やインターネット等で予習する(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
6	卓球 個人技術(サービス)とゲーム	サービスの方法について参考書やインターネット等で予習する(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
7	卓球 リーグ戦(ルール・運営方法)	ルールやゲームの運営方法について調べ、まとめる(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
8	卓球 リーグ戦(ルール・運営方法)	ルールやゲームの運営方法について調べ、まとめる(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
9	バドミントン 基礎技術、マナー	バドミントンの特性について参考書やインターネット等で予習する(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
10	バドミントン 個人技術(ドロップ等)とゲーム	ハイクリア・ドロップ・ロブについて参考書やインターネット等で予習する(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
11	バドミントン 個人技術(ドライブ等)とゲーム	ドライブ・ヘアピンについて参考書やインターネット等で予習する(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
12	バドミントン 個人技術(サービス)とゲーム	サービスの方法について参考書やインターネット等で予習する(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
13	バドミントン 個人技術(レシーブ等)とゲーム	スマッシュ・レシーブについて参考書やインターネット等で予習する(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
14	バドミントン リーグ戦(ルール・運営方法)	ルールやゲームの運営方法について調べ、まとめる(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
15	バドミントン リーグ戦(ルール・運営方法)	ルールやゲームの運営方法について調べ、まとめる(30分) 今回の授業内容の復習(30分)

《専門科目》

科目名	球技スポーツ				
担当者氏名	高木 富士男、坂元 瑞貴				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》

ゲームを中心に授業を行い、バレーボール・サッカーの基本的技術やゲーム運営、スキルレベルや目的に応じたルールの設定方法・指導方法などの習得を目指す。また、球技スポーツの楽しさやチームプレイにおけるチームメイトとの協力の重要性などを実感し、フェアプレイの精神を身に付ける。

《教科書》

使用しない

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

技術練習や実践練習の取り組みに対して、適宜フィードバックを受ける。

《授業の到達目標》

1. バレーボール・サッカーの基本的技術・ルール・マナー・指導方法を習得し、実施することができる
2. 円滑で安全なゲームの運営方法を習得し、運営することができる
3. 球技スポーツの楽しさを実感できる

《成績評価基準》

1. 基本的技術を身に付け、ゲームの中で発揮することができる
2. 安全に留意しながらゲームの運営をすることができる
3. チーム内で協力し、与えられた課題に対する指導方法を計画することができる

《成績評価の方法》

バレーボール 50% (実技20%、授業の取組30%)
 サッカー 50% (実技20%、授業の取組20%、課題提出10%)

《参考図書》

「バレーボール」青山繁(著)旺文社

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス	歴史・特性について参考書やインターネット等で予習する(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
2	バレーボール 個人技術とゲーム	パスの方法について参考書やインターネット等で予習する(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
3	バレーボール 個人技術とゲーム	サーブの方法について参考書やインターネット等で予習する(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
4	バレーボール 個人技術とゲーム	スパイクの方法について参考書やインターネット等で予習する(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
5	バレーボール 戦術とゲーム	フォーメーションについて参考書やインターネット等で予習する(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
6	バレーボール 戦術とゲーム	ゲームの運営方法について参考書やインターネット等で予習する(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
7	バレーボール 実践練習	レベルや目的に応じた指導方法について考え、計画する(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
8	バレーボール 実践練習	レベルや目的に応じた指導方法について考え、計画する(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
9	サッカー 個人技術	予習: サッカーのルールを調べる(30分) 復習: サッカーのルールを再確認する(30分)
10	サッカー 個人技術	予習: キックの種類を調べる(30分) 復習: 授業を振り返り、課題に取り組む(30分)
11	サッカー 実践練習	予習: サッカー動画を視聴する(30分) 復習: 授業を振り返り、課題に取り組む(30分)
12	サッカー 実践練習	予習: サッカー動画を視聴する(30分) 復習: 授業を振り返り、課題に取り組む(30分)
13	サッカー 実践練習	予習: サッカー動画を視聴する(30分) 復習: 授業を振り返り、課題に取り組む(30分)
14	サッカー ゲーム	予習: サッカー動画を視聴する(30分) 復習: 授業を振り返り、課題に取り組む(30分)
15	サッカー ゲーム	予習: サッカー動画を視聴する(30分) 復習: 授業を振り返り、課題に取り組む(30分)

《専門科目》

科目名	マリンスポーツ				
担当者氏名	星子 和夫、坂元 瑞貴				
授業方法	実習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》

【目的】 実習体験を通して、体を動かすことの楽しさや喜びを感じながら、大自然を体感し、その恩恵に触れる。水中での物理的性質である水温、浮力、抵抗、水圧を感じながら自身の生理反応の変化を確認する。ダイビングを安全に楽しく実施するために、自己の健康管理の重要性を確認する。集団生活によってマナー、協調性などの社会性を高める。大学での講義と海洋実習を行います。別途、参加費が必要。

《授業の到達目標》

1. マリンスポーツの1つであるダイビングの資格を取得するための知識や技術を身に付ける。2. 海洋環境を認識しながら安全管理について理解する。3. 集団活動およびパディとの活動を円滑に行い、自己管理を徹底できる。

《成績評価の方法》

課題 40%
その他（実習態度） 60%

《教科書》

なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

ダイビングに関する講義内容や技術は専門のインストラクターから適宜フィードバックを受けます。提出物は教員確認後に返却されます。希望者は別途追加実習を行うことで、Cカード取得に取り組むことが出来ます。

《成績評価基準》

1. ダイビングの資格を取得するための知識や技術を身に付けることができる。2. 海洋環境を認識しながら安全管理について理解することができる。3. 集団活動およびパディとの活動を円滑に行うことができる。4. 体調管理に気を配ることができる。5. 各提出物を期限内に提出できる。

《参考図書》

NAUI パスポートダイバー用教材

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス	泳力・体力を事前にプールやトレーニングルーム等で確認する(2時間) 自身の泳力と海洋実習で必要な泳力を考え、トレーニング等を行う(2時間)
2	事前指導	泳力・体力を事前にプールやトレーニングルーム等で確認する(2時間) 実習の目的をまとめる。実習で必要なトレーニング等を行う(2時間)
3	海洋実習	
4	海洋実習	
5	海洋実習	
6	海洋実習	
7	海洋実習	インストラクターの指示に従い、以下のような点について予習復習を行う (各日予習30分、復習30分)
8	海洋実習	1) 体調管理、ボディケア 2) 講義で学んだ内容をしおりにまとめる。
9	海洋実習	3) その日の自身やパディの行動やスキルを振り返り、不足している部分 はインストラクターに尋ねるなど、次の実習に向けてスキル向上を図る。
10	海洋実習	
11	海洋実習	
12	海洋実習	
13	海洋実習	
14	海洋実習	
15	まとめ	実習で学んだことをまとめる(2時間) 実習で学んだことを振り返り、提出物を作成する(2時間)

《専門科目》

科目名	スポーツ企業情報演習				
担当者氏名	高木 富士男、坂元 瑞貴				
授業方法	演習	単位・必修	1単位・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP4 地域社会へのウエルネスの貢献を有する。				

《授業の概要》

スポーツ分野の仕事について知るため、インターネットを使用して情報収集を行います。また、収集した情報は個人・グループで発表し、その後、その情報を基に数力所の企業を選択し、実際に企業の見学を行います。スポーツ企業実習につながる授業ですので、日頃から身だしなみや言葉遣いに気を配り、企業見学に臨みましょう。

《教科書》

使用しない

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

提出課題は評価・フィードバックをした上で返却します。

《授業の到達目標》

1. スポーツ分野の仕事に関する情報が収集できる
2. 収集した仕事の情報をまとめ、プレゼンテーション発表をすることができる
3. グループ活動でコミュニケーションを図り、作業分担をすることができる

《成績評価基準》

1. インターネットを用い、スポーツ分野の仕事进行调查し、情報を整理した上で指示された項目ごとに取りまとめることができる。2. 収集した情報をまとめ、人にわかりやすく伝えることができる。3. グループ内で協力し、与えられた課題を共同作業によって解決することができる。

《成績評価の方法》

レポート 20 %
課題 50 %
授業の取組 30 %

《参考図書》

適宜紹介します

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション/働くとはなにか	予習: 社会人はなぜ働かなくてはならないのか考える、身近な社会人になぜ働くかインタビューする(1時間) 復習: 今回の授業内容の復習(1時間)
2	スポーツ分野の仕事はなにか	予習: スポーツ分野の職業について考え、まとめる(1時間) 復習: 今回の授業内容の復習(1時間)
3	スポーツ企業を知る フィットネスクラブ	予習: フィットネスクラブについて調べ、まとめる(1時間) 復習: 今回の授業内容の復習(1時間)
4	スポーツ企業を知る 幼児体育施設	予習: 幼児体育施設について調べ、まとめる(1時間) 復習: 今回の授業内容の復習(1時間)
5	スポーツ企業を知る スイミングクラブ・スイミングスクール	予習: スイミングクラブについて調べ、まとめる(1時間) 復習: 今回の授業内容の復習(1時間)
6	スポーツ企業を知る 公共体育施設	予習: 公共体育施設について調べ、まとめる(1時間) 復習: 今回の授業内容の復習(1時間)
7	スポーツ企業を知る 健康増進施設	予習: 健康増進施設について調べ、まとめる(1時間) 復習: 今回の授業内容の復習(1時間)
8	スポーツ企業を知る 医療・福祉施設	予習: 医療・福祉施設について調べ、まとめる(1時間) 復習: 今回の授業内容の復習(1時間)
9	スポーツ指導者について 指導者の心得	予習: 指導者に必要なものは何か調べ、まとめる(1時間) 復習: 今回の授業内容の復習(1時間)
10	スポーツ指導者について 指導者の必要性、需要	予習: どのような指導者が求められるか調べ、まとめる(1時間) 復習: 今回の授業内容の復習(1時間)
11	スポーツ企業見学	予習: 選択した企業情報を予習する。職業・分野への疑問点や質問を考える(1時間) 復習: 施設見学を行い、実際に判明したことや、新たな疑問点をまとめる(1時間)
12	スポーツ企業見学	予習: 選択した企業情報を予習する。職業・分野への疑問点や質問を考える(1時間) 復習: 施設見学を行い、実際に判明したことや、新たな疑問点をまとめる(1時間)
13	スポーツ企業見学	予習: 選択した企業情報を予習する。職業・分野への疑問点や質問を考える(1時間) 復習: 施設見学を行い、実際に判明したことや、新たな疑問点をまとめる(1時間)
14	スポーツ企業見学	予習: 選択した企業情報を予習する。職業・分野への疑問点や質問を考える(1時間) 復習: 施設見学を行い、実際に判明したことや、新たな疑問点をまとめる(1時間)
15	スポーツ企業見学	予習: 選択した企業情報を予習する。職業・分野への疑問点や質問を考える(1時間) 復習: 施設見学を行い、実際に判明したことや、新たな疑問点をまとめる(1時間)

《専門科目》

科目名	スポーツボランティア演習				
担当者氏名	高木 富士男、小川 茜、坂元 瑞貴				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP4 地域社会へのウエルネスの貢献を有する。				

《授業の概要》

指定するボランティア活動に参加します。そのため時間割外の活動や学外、週末祝日等での活動もあります。受け身でなく主体的な姿勢で様々なボランティア活動に取り組んでくれることを期待します。新型コロナウイルス感染拡大状況によってはボランティア内容は変わることがあります。

《教科書》

なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

提出物は評価・フィードバックをして返却します

《授業の到達目標》

1. ボランティアの在り方について学習する
2. ボランティア活動を通して「支える」意義を発見する
3. 礼儀、マナー、社会常識、コミュニケーションスキルを高める

《成績評価基準》

1. 各ボランティアにおいて、真摯に取り組むことができる
2. ボランティア活動後にレポートを提出する

《成績評価の方法》

筆記試験 % レポート %
 課題 50% 実技 %
 授業の取組 50%
 その他 () %

《参考図書》

「大学生学びのハンドブック(3訂版)」世界思想社編集部(編)世界思想社、「就職活動ハンドブック」西短進路指導部(学生へ配布済み)

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス、ボランティア活動計画	どのようなボランティア活動に参加したいかを考える(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
2	ボランティア論	ボランティア活動に取り組む姿勢を考える(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
3	福浜地区健康教室	事前指導に従いレポートを作成する(30分)・事後指導に従いレポートを作成する(30分)
4	福浜地区健康教室	事前指導に従いレポートを作成する(30分)・事後指導に従いレポートを作成する(30分)
5	福岡県障がい者スポーツ大会	事前指導に従いレポートを作成する(30分)・事後指導に従いレポートを作成する(30分)
6	福岡県障がい者スポーツ大会	事前指導に従いレポートを作成する(30分)・事後指導に従いレポートを作成する(30分)
7	福岡県障がい者スポーツ大会	事前指導に従いレポートを作成する(30分)・事後指導に従いレポートを作成する(30分)
8	福岡県障がい者スポーツ大会	事前指導に従いレポートを作成する(30分)・事後指導に従いレポートを作成する(30分)
9	福岡県障がい者スポーツ大会	事前指導に従いレポートを作成する(30分)・事後指導に従いレポートを作成する(30分)
10	ユニクロサッカーキッズ	事前指導に従いレポートを作成する(30分)・事後指導に従いレポートを作成する(30分)
11	ユニクロサッカーキッズ	事前指導に従いレポートを作成する(30分)・事後指導に従いレポートを作成する(30分)
12	ユニクロサッカーキッズ	事前指導に従いレポートを作成する(30分)・事後指導に従いレポートを作成する(30分)
13	ユニクロサッカーキッズ	事前指導に従いレポートを作成する(30分)・事後指導に従いレポートを作成する(30分)
14	ユニクロサッカーキッズ	事前指導に従いレポートを作成する(30分)・事後指導に従いレポートを作成する(30分)
15	まとめ	ボランティア活動で学んだ内容をまとめる(30分) 今回の授業内容の復習(30分)

《基礎科目》

科目名	茶道文化				
担当者氏名	黒岩 富美枝				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

1. 茶の湯の歴史
2. 実技 茶室（和室）での基本所作 客の心得 日本茶の種類と淹れ方 点前の基本割稽古とテーブル茶（盆点前） 茶の湯の道具と水屋の仕事
3. 日本の伝統文化について【東洋陶磁美術館見学】

《教科書》

プリントを配布する

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

次の授業時間に講評する

《授業の到達目標》

茶の湯は、日本古来より「もてなしの文化」といわれている。一服のお茶を点て、おもてなしの基本が身につくようになる。基本的な所作、手順の繰り返しで、点てられたお茶を感謝していただく 四季の移るいや季節感を、茶室の床の間の軸、花や自分の周りで感ずる 抹茶を楽しみ、自分に対してテーブル茶でお茶を点てて飲むことができる 伝統文化に関する話や実践を通して、茶道に興味・関心を持つことができる

《成績評価基準》

総合評価とする

1. レポートによる内容評価（期限内に提出）
2. 実技の習得度
3. 授業への積極的な取組

《成績評価の方法》

筆記試験 % レポート 50 %
課題 % 実技 30 %
授業の取組 20 % その他 () %

《参考図書》

江戸千家教本「基本の点前」

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	利インテ-ジョン 茶の湯とは？ 茶室の成り立ち	予習：シラバス確認 30分 復習：シラバスを読む 30分
2	茶室の成り立ち お辞儀 と客の心得（つくばい）	予習：シラバス確認 30分 復習：授業の復習 30分
3	茶室 基本所作「立居、 襖の開閉」・薄茶点前	予習：基本所作 30分 復習：授業の復習 30分
4	茶室 基本所作 服紗、 扇子の扱い方	予習：つくばいの使い方30分 復習：授業の復習 30分
5	客の心得 席入り 菓子 と薄茶のいだたき方	予習：服紗の扱い 30分 復習：授業の復習 30分
6	日本茶の種類と淹れ方	予習：プリント確認 30分 復習：レポート作成
7	茶の湯の道具と水屋の成 立ち、水屋の仕事	予習：服紗の扱い 30分 復習：授業の復習 30分
8	割稽古（基本） 服紗の 扱い（服紗さばき）	予習：服紗の扱い 30分 復習：服紗さばき 30分
9	割稽古（基本） 薄茶器 ・茶杓を拭く	予習：服紗さばき 30分 復習：服紗さばき 30分
10	割稽古（基本） 茶巾の 扱い 茶笥通し、すすぎ	予習：服紗さばき 30分 復習：茶巾のたたみ方 30分
11	テーブル茶（盆点前）の 点前 茶碗の拭き方	予習：服紗さばき 30分 復習：茶巾の扱い 30分
12	テーブル茶（盆点前）の 点前 亭主と客	予習：服紗さばき 30分 復習：授業の復習 30分
13	テーブル茶（盆点前）の 点前 亭主と客	予習：服紗さばき 30分 復習：授業の復習 30分
14	福岡東洋陶磁美術館見学	予習：プリント確認 30分 復習：レポート作成
15	テーブル茶（盆点前）の 点前 亭主と客の役割	予習：服紗さばき 30分 復習：授業の復習 30分

《専門科目》

科目名	検定読解				
担当者氏名	高向 有理				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

日本語能力試験N2レベルを目標とした読解力を上げるための練習をします。目標はN2合格ですが、その練習を通して日本での生活に必要な文章を読む力を身につけます。授業は課題の開設を中心に行います。必ず課題を解いて全授業に出席してください。読解力向上のポイントは自宅学習です。自己管理能力を身につけましょう。

《授業の到達目標》

- ・学校や生活で必要な説明文や指示文を読んで内容を理解することができる。
- ・かんたんな内容の評論やエッセイを読んで、因果関係や筆者の考え方が理解できる。
- ・かんたんな内容の複数のテキストを読み比べて、共通点や相違点を述べることができる。
- ・文章から必要な情報を探し出すことができる。

《成績評価の方法》

筆記試験 50% レポート %
 課題 30% 実技 %
 授業の取組 20%
 その他 () %

《教科書》

日本語能力試験問題集N2読解スピードマスター
 (Jリサーチ出版)

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

課題の解説は次回の授業内で行う。
 理解度確かめるために、小テストを実施し添削して返却する。

《成績評価基準》

- ・毎回課題にしっかり取り組んで授業にのぞんでいたか。
 - ・授業で学んだ語彙や文法とまとめノートを作るなど自宅学習が十分になされていたか。
 - ・文章を理解するためのストラテジーを身につけることができたか。
- 以上の取り組み方と模試・期末試験で総合的に評価する。

《参考図書》

日本語能力試験N2関連問題集を適宜紹介します。

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	実力テスト 身の回りの文書	予習：授業内容の確認 30分 復習：授業内で学習した語彙・文法 60分
2	通知文・お知らせ	予習：課題読解 60分 復習：授業内で学習した語彙・文法 60分
3	意見文	予習：課題読解 60分 復習：授業内で学習した語彙・文法 60分
4	説明文	予習：課題読解 60分 復習：授業内で学習した語彙・文法 60分
5	エッセイ	予習：課題読解 60分 復習：授業内で学習した語彙・文法 60分
6	小説	予習：課題読解 60分 復習：授業内で学習した語彙・文法 60分
7	新聞	予習：課題読解 60分 復習：授業内で学習した語彙・文法 60分
8	グラフと図表	予習：課題読解 60分 復習：授業内で学習した語彙・文法 60分
9	論説文	予習：課題読解 60分 復習：授業内で学習した語彙・文法 60分
10	統合問題	予習：課題読解 60分 復習：授業内で学習した語彙・文法 60分
11	模擬試験	予習：模擬試験準備 60分 復習：模擬試験の見直し 60分
12	模擬試験の解説 情報検索	予習：課題読解 60分 復習：授業内で学習した語彙・文法 60分
13	過去問題	予習：課題読解 60分 復習：授業内で学習した語彙・文法 60分
14	過去問題	予習：課題読解 60分 復習：授業内で学習した語彙・文法 60分
15	期末試験 まとめ	予習：期末試験準備 60分 復習：まとめ

《専門科目》

科目名	検定文法				
担当者氏名	入江 千治				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

- 1.N2レベルの文法を理解し、くり返し使い方を練習する。
- 2.N2レベルの文法を使って、文章を書く練習をする。

《教科書》

『耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2』

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

- ・テキストの各ユニット終了後、小テストを行い、翌週フィードバックを行う。
- ・毎週、宿題を提出し、翌週返却、フィードバックを行う。

《授業の到達目標》

- 1.日本語能力試験N2合格に向け、文法力の向上を目指す。
- 2.テキストで学んだ文法をよく理解し、日本語能力試験の問題において、正しい答えを導き出せる。
- 3.テキストで学んだN2文法を使用し、文章が書ける。

《成績評価基準》

- ・N2文法をよく理解し、文法力が向上できたか。
- ・日本語能力試験の問題において、正しい答えが導き出せるようになったか。
- ・N2文法を使用し、文章が書けるようになったか。

《成績評価の方法》

- ・期末試験50%
- ・小テスト・課題30%
- ・授業への取り組み20%

《参考図書》

パワードリル文法N2

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	授業についての説明 N2文法 導入・練習	予習：テキストの内容を確認/過去に学んだ文法の復習をしておく。(30分) 復習：第1回授業内容の復習(30分)
2	N2文法 導入・練習	予習：第2回授業内容の予習(30分) 復習：第2回授業内容の復習(30分)
3	小テスト N2文法 導入・練習	予習：第3回授業内容の予習(30分) 復習：第3回授業内容の復習(30分)
4	N2文法 導入・練習	予習：第4回授業内容の予習(30分) 復習：第4回授業内容の復習(30分)
5	N2文法 導入・練習	予習：第5回授業内容の予習(30分) 復習：第5回授業内容の復習(30分)
6	小テスト N2文法 導入・練習	予習：第6回授業内容の予習(30分) 復習：第6回授業内容の復習(30分)
7	N2文法 導入・練習	予習：第7回授業内容の予習(30分) 復習：第7回授業内容の復習(30分)
8	N2文法 導入・練習	予習：第8回授業内容の予習(30分) 復習：第8回授業内容の復習(30分)
9	小テスト N2文法 導入・練習	予習：第9回授業内容の予習(30分) 復習：第9回授業内容の復習(30分)
10	N2文法 導入・練習	予習：第10回授業内容の予習(30分) 復習：第10回授業内容の復習(30分)
11	N2文法 導入・練習	予習：第11回授業内容の予習(30分) 復習：第11回授業内容の復習(30分)
12	小テスト N2文法 導入・練習	予習：第12回授業内容の予習(30分) 復習：第12回授業内容の復習(30分)
13	N2文法 導入・練習	予習：第13回授業内容の予習(30分) 復習：第13回授業内容の復習(30分)
14	N2文法 導入・練習	予習：第14回授業内容の予習(30分) 復習：第14回授業内容の復習(30分)
15	総復習 期末テスト	予習：テスト前の総復習(60分) 復習：テスト後の確認(30分)

《専門科目》

科目名	検定文字語彙				
担当者氏名	高向 有理				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力					

《授業の概要》

N3からN2レベルの教科書に沿って授業を進めます。3000～6000語を習得するためには自宅学習が必須です。予習・復習に時間をかけ、授業では語彙の運用と確認と応用小テストの繰り返しで力をつけていきましょう。語彙力は日本語力向上の第一歩です。

《教科書》

新完全マスター語彙 日本語能力試験N2
(スリーエーネットワーク)

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

小テスト、模擬試験は翌週にフィードバックします。

《授業の到達目標》

- ・日本語能力試験N3～N2レベルの漢字を読むことができる。
- ・N3～N2レベルの語彙の意味を調べ、短い文の中で使うことができる。
- ・名詞・基本動詞などは、自分で調べ、不明な点を教師に質問できる。
- ・日本語能力試験合格を目指し、自主的に取り組むことができる。

《成績評価基準》

- ・日本語能力試験N3～2レベルの漢字が読めるか。
- ・N3～2レベルの語彙の意味を調べ、短い文の中で使えるか。
- ・名詞・基本動詞は自分で調べ、不明な点を教師に質問できるか。
- ・日本語能力試験合格を目指し自主的に取り組めるか。

《成績評価の方法》

筆記試験 30% レポート %
課題 30% 実技 %
授業の取組 30%
その他(模試) 10%

《参考図書》

日本語能力試験関連問題集

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション、実力テスト	予習: 実力テスト準備 1時間 復習: 実力テスト復習 30分
2	実力テスト FB、語彙(社会1)	予習: 語彙(社会1) 30分 復習: 語彙(社会1) 30分
3	語彙(社会2)・短文作成	予習: 語彙(社会2) 30分 復習: 語彙(社会2) 30分
4	小テスト、語彙(社会3)・短文作成	予習: 語彙(社会3) 30分 復習: 語彙(社会3) 30分
5	語彙(自然)・短文作成	予習: 語彙(自然) 30分 復習: 語彙(自然) 30分
6	小テスト、語彙(和語動詞)、短文作成	予習: 語彙(和語動詞) 30分 復習: 語彙(和語動詞) 30分
7	語彙(漢語動詞)、短文作成	予習: 語彙(漢語動詞) 30分 復習: 語彙(漢語動詞) 30分
8	日本語能力試験模擬試験	予習: 模試準備 1時間 復習: 模試復習 1時間
9	小テスト、語彙(形容詞)、短文作成	予習: 語彙(形容詞) 30分 復習: 語彙(形容詞) 30分
10	語彙(副詞)、短文作成	予習: 語彙(副詞) 30分 復習: 語彙(副詞) 30分
11	小テスト、語彙(オノマトベ)、短文作成	予習: 語彙(オノマトベ) 30分 復習: 語彙(オノマトベ) 30分
12	語彙(漢語)、短文作成	予習: 語彙(漢語) 30分 復習: 語彙(漢語) 30分
13	小テスト、語彙(言い換え類義)短文作成	予習: 語彙(言い換え類義) 30分 復習: 語彙(言い換え類義) 30分
14	語彙(語形成)、短文作成	予習: 語彙(語形成) 30分 復習: 語彙(語形成) 30分
15	期末試験、まとめ	予習: 期末準備 2時間

《専門科目》

科目名	アジア文化交流史				
担当者氏名	永吉 美知子				
授業方法	演習	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

日本との長い文化交流を時系列で紹介する
理解を深めるために 様々な資料やパワーポイントなどを用いる

《教科書》

なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

小テストと課題レポートの提出

《授業の到達目標》

文化交流がもたらされた歴史の必然性を理解する
過去の歴史が現代に影響し 未来を形づくることを意識化させる

《成績評価基準》

授業中の態度 小テスト 評価テスト

《成績評価の方法》

筆記試験70 % レポート %
課題 % 実技 %
授業の取組30 %
その他 () %

《参考図書》

なし

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)	
1	オリエンテーション 農業革命	復習	縄文と弥生時代(2時間)
2	古墳時代	予習 復習	奈良へのながれ(2時間) 弥生までの流れ(2時間)
3	飛鳥から奈良時代 遣隋使 遣唐使	予習 復習	平安時代(2時間) 中国との往来がかえたもの(2時間)
4	奈良時代 仏教文化	予習 復習	平安時代(2時間) 奈良時代を終わらせたもの(2時間)
5	平安時代 国風文化	予習 復習	鎌倉時代(2時間) 平安時代の貴族の政治(2時間)
6	鎌倉時代 武士と元寇	予習 復習	室町時代(2時間) 武士が変えた社会 元寇の影響
7	室町時代 文化	予習 復習	安土桃山(2時間) 室町文化(2時間)
8	安土桃山 鉄砲伝来	予習 復習	江戸時代(2時間) なぜ鉄砲は日本へきたかの(2時間)
9	江戸時代 鎖国と江戸文化	予習 復習	明治(2時間) なぜ鎖国をしたのか(2時間)
10	江戸時代 明治維新 黒船が日本へ	予習 復習	大正時代(2時間) なぜ黒船は日本へ(2時間)
11	明治時代 大正時代 条約改正 世界大戦	予習 復習	昭和時代(2時間) 大正時代(2時間)
12	昭和時代 敗戦まで	予習 復習	敗戦後の日本(2時間) 原爆投下までの道(2時間)
13	敗戦から現代まで	復習	全体の流れを把握する(4時間)
14	評価テスト対策	復習	対策テストの理解 (4時間)
15	評価テスト	自宅で復習	

《専門科目》

科目名	ビジネスコミュニケーション				
担当者氏名	井上 しづ恵、高藤 純子				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力					

《授業の概要》

社会に出る前に常識として知っておかなければならない時事用語やビジネス用語がある。先ずそういった常識を学び、知識を得た上で、新聞記事やビジネス文書を読めるようにする。更に、表やグラフなどを分析し、問題をあぶり出し、問題解決につながる糸口を提起できる力を身に付ける。

《教科書》

ビジネス能力検定ジョブパス

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

毎回演習問題を解き、授業内で解説する

《授業の到達目標》

- ・インターシップ前におさえておきたいビジネス知識やビジネスマナーを理解することができる。
- ・仕事に役立つ論理力を養うことができる。
- ・時事用語やビジネス用語を理解することができる。
- ・表やグラフを見て、問題発見や分析ができる。
- ・ビジネス能力検定3級に合格するする実力を身に付けることができる

《成績評価基準》

授業での演習を通して、ビジネス能力検定3級レベルの知識、思考力、分析力を身につけることができたかを評価する

《成績評価の方法》

筆記試験 40% レポート %
 課題 % 実技 %
 授業の取組 60%
 その他 () %

《参考図書》

適宜紹介する

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	キャリアと仕事へのアプローチ	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
2	仕事の基本となる8つの意識	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
3	コミュニケーションとビジネスマナーの基本	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
4	指示の受け方と報告、連絡・相談	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
5	話し方と聞き方のポイント	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
6	来客応対と訪問の基本マナー	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
7	会社関係でのつき合い	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
8	仕事への取り組み方	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
9	ビジネス文書の基本	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
10	電話応対	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
11	統計・データの読み方・まとめ方	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
12	情報収集とメディアの活用	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
13	会社を取り巻く環境と経済の基本	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
14	ビジネス用語の基本	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
15	知識・読解・分析などの総括	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する

《専門科目》

科目名	ビジネスライティング				
担当者氏名	志田 華奈子、高藤 純子				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

自らの意見や立場を言葉で明確に表明することは社会人として必要なスキルである。日本語は書き言葉や話し言葉、場面などで、さまざまな使い分けが必要な言語である一方、新しい表現を生み出しやすい言葉でもある。この授業では、さまざまな資料から多くの日本語表現に触れつつ、自らも文章を書き、他者への伝わり方を議論することで、コミュニケーションの道具としてのことばを活用できるスキルを磨く。

《授業の到達目標》

- ・社会に出るにあたって必要な文章力や表現力を磨き、場面に応じた日本語表現を使用することができる。
- ・自らの意見や表現したいことを、他者がわかりやすいように言葉に表すことができる。
- ・語彙力や表現力を伸ばすために、普段から身の回りにおけることばの表現に関心を持ち、調べ、それらを使用できようになる。

《成績評価の方法》

筆記試験 40%
課題 30%
授業の取組 30%

《教科書》

適宜プリントを配布

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

コメントをつけて返却する

《成績評価基準》

- ・社会に出るにあたって必要な文章力や表現力を磨き、場面に応じた日本語表現を使用することができたか。
- ・自らの意見や表現したいことを、他者がわかりやすいように言葉に表すことができたか。
- ・語彙力や表現力を伸ばすために、身の回りのことばの表現に関心を持ち調べ、それらを使用できようになったか。

《参考図書》

『大学生のための日本語表現トレーニング』橋本修(三省堂)
『形容詞を使わない大人の文章表現力』石黒圭(日本実業出版社)

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション	復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。(30分)
2	話し言葉と書き言葉	予習：提示された課題について調べておく。(30分) 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。(30分)
3	描写 (見たものを描写する)	予習：提示された課題について調べておく。(30分) 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。(30分)
4	描写 (絵や動画を描写する)	予習：提示された課題について調べておく。(30分) 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。(30分)
5	形容詞問題	予習：提示された課題について調べておく。(30分) 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。(30分)
6	外面と感覚の表現	予習：提示された課題について調べておく。(30分) 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。(30分)
7	伝え方のコツ (依頼)	予習：提示された課題について調べておく。(30分) 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。(30分)
8	伝え方のコツ (効果的な表現)	予習：提示された課題について調べておく。(30分) 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。(30分)
9	SDS法・文章のコツ	予習：提示された課題について調べておく。(30分) 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。(30分)
10	敬語表現	予習：提示された課題について調べておく。(30分) 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。(30分)
11	メールの書き方	予習：提示された課題について調べておく。(30分) 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。(30分)
12	ビジネス文書	予習：提示された課題について調べておく。(30分) 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。(30分)
13	自己PR文 (自己分析)	予習：提示された課題について調べておく。(30分) 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。(30分)
14	自己PR文 (文作成)	予習：提示された課題について調べておく。(30分) 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。(30分)
15	期末試験 まとめ	予習：提示された課題について調べておく。(30分) 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。(30分)

《専門科目》

科目名	実践的プログラミング演習				
担当者氏名	柿山 達哉、常岡 直樹				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力					

《授業の概要》

Excelの一般的な利用方法の解説と実習。
 マクロ・VBAの概要の解説と実習。
 マクロを使ってプログラムを作成する。
 作成したプログラムのプレゼンテーションをおこなう。

《教科書》

今すぐ使えるかんたんエクセル2019
 井上香緒里著
 技術評論社

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

個人ごとに課題に対する評価レポートを提示し、説明する。

《授業の到達目標》

マイクロソフトExcelの基本的な関数機能を使用することができる。
 簡単なExcelマクロ機能のプログラミングからテストができるようになる。

《成績評価基準》

- ・授業に対し意欲的に取り組んでいたか。
- ・課題に対して真摯に取り組むことができたか。
- ・出席率、予習、復習を重視します。

《成績評価の方法》

課題 60%
 授業の取組 40%

《参考図書》

適宜紹介します

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	講座の目標と2年間の講義内容説明	予習：なし 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。(20分)
2	パソコン活用術	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。(20分) 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。(20分)
3	パソコン活用術	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。(20分) 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。(20分)
4	エクセルの基本操作	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。(20分) 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。(20分)
5	エクセルの計算式と関数	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。(20分) 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。(20分)
6	エクセルでよく使う関数の解説と実習	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。(20分) 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。(20分)
7	エクセルでよく使う関数の解説と実習	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。(20分) 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。(20分)
8	エクセル計算式と関数の実習	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。(20分) 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。(20分)
9	エクセル計算式と関数の実習	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。(20分) 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。(20分)
10	マクロ・VBAとはVBAで何ができるのか	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。(20分) 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。(20分)
11	簡単なマクロコーディング・開発画面の使い方	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。(20分) 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。(20分)
12	簡単なマクロコーディング・VBAの基礎知識	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。(20分) 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。(20分)
13	簡単なマクロコーディング・VBAの基礎知識	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。(20分) 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。(20分)
14	簡単なマクロコーディング・実習	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。(20分) 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。(20分)
15	簡単なマクロコーディング・実習	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。(20分) 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。(20分)